

令和5年度教育行政の推進

令和4年度は、「強く生き抜く力の育成」魅力ある学校づくりを通して「を学校教育の目標に掲げ取り組んでまいりました。

新型コロナウイルス感染症のため学年閉鎖や学校閉鎖を行った学校がありましたが、全ての学校で修学旅行が実施できるなど、各学校では、できる限り児童生徒の活動を保障するよう努めてまいりました。

また、令和4年度は、釜石中学校男子バスケットボール部が、岩手県中学校総合体育大会で初優勝を飾りました。同じく男子剣道部が準優勝の成績を収めるなど嬉しい活躍がありました。

一方で、不登校児童生徒の増加や岩手県が発表した津波浸水想定区域の拡大による児童生徒の安全確保などの課題もあります。

令和5年度の教育行政の推進に当たっては、引き続き「強く生き抜く力の育成」魅力ある学校づくりを通して「を学校教育の目標に掲げ取り組んでまいります。

児童生徒が、通いたい、保護者の皆様が通わせたいと思う魅力

ある学校づくりを通して、児童生徒が社会の中で強く生き抜いていくための力を育ててまいります。

以下、令和5年度の教育行政の重点事項を述べさせていただきます。

なお、「教育行政方針演述」の全文につきましては、ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

(1) 「いのちの教育」の推進

自他の命を尊重し、命を守るために主体的に行動できる児童生徒を育む「いのちの教育」を推進します。

「いのちの教育」の推進に当たっては、現在、指導のための「防災教育の手引き」を先生方中心に作成しています。令和5年度は、その完成を目指します。

(2) 確かな学力の育成

当市の課題は、知識を活用して、自分の考えを生み出したり、まとめたり、説明・表現する「思考力・判断力・表現力」の育成です。

そのために、先生方の指導力

の向上と、引き続き、授業改善に取り組めます。

(3) ICT教育の推進

タブレット端末の活用頻度が個々の教員によって差があることから、その解消に努めてまいります。

ICTを効果的に授業に活用するために「ロイロノート」という学習ソフトを試験的に導入します。

(4) コミュニティ・スクールの推進

地域と学校がより連携する仕組みとして、コミュニティ・スクールを令和4年度から導入しました。

令和5年度は、協議のみならず地域と学校が協働した活動ができるよう進めてまいります。

(5) 不登校対策

一番の対策は、児童生徒一人ひとりととって、学校が魅力あるものになることです。そのために、「わかる授業の実施」「児童生徒一人ひとりの活躍の場づくり」「共感的な人間関係づくり」を行ってまいります。

学校以外の学びの機会として、

教育委員会では、「わかば教室」を設置し、学習支援などを行っています。必要に応じて活用願います。

(6) 鉄づくり体験の実施

令和4年度から、市内全ての中学校1年生を対象として、旧釜石鉱山跡地で鉄づくり体験（たたら製鉄）を実施しました。

令和5年度も引き続き行います。

(7) 教育環境の充実

子どもたちの安全・安心のために幼稚園及び学校施設の維持・管理に努めます。

令和4年度は、双葉小、小佐野小、大平中の体育館トイレの洋式化を行いました。

令和5年度は、市内3校のトイレの洋式化のための設計を行います。

(8) 学校規模の適正化・適正配置

学校規模の適正化・適正配置については、「釜石市学校規模適正化検討委員会」からの提言を基に、基本方針の策定を行っており、今後、公表し、皆様への説明を行います。その後、具体的計画を策定し、皆様に示してまいります。

令和4年度第45回釜石市教育研究所 研究発表大会・教育講演会を行いました

令和5年1月5日（木）に「令和4年度第45回釜石市教育研究所研究発表大会・教育講演会」がETTO（釜石市民ホール）で開催されました。

釜石市教育研究所は、長い歴史があります。釜石の未来を担う子供たちのために、釜石市内の小中学校の先生方、幼児教育施設の先生方が一体となって、研究を積み重ねてきました。

今年度は、「授業づくり研究班」「幼保小連携推進委員会」の2つの部会から研究発表がありました。研究員の先生方には、この一年間、釜石の子供たちのために、意欲的にそして主体的に実践を積み重ねていただきました。

「こころの教育研究班」の先生方には、令和4年度から防災教育の手引きの作成に取り組んでいたおられます。来年度の研究発表大会には、完成した手引きの内容を発表していただく予定です。

今年度の発表を通して、幼児期から小中学校のつながりの中で、子供たちの「主体性を大切にした教育」の在り方について、参会した

先生方で思いを共有することができました。

また、今年度は、岩手県教育委員会事務局学校教育室・主席指導主事兼学力向上担当課長の遠山秀樹氏を講師に迎え、「今こそ思考、判断、表現（実践）のとき」と題し講演をいただきました。

遠山先生の教育に対する熱い思いに触れ、参会した先生方からは、新学期への新たな決意が感じられる感想がたくさん寄せられました。

教育委員会は研究所運営を通して、引き続き釜石の子供たちの未来のために、先生方とともに教育の質の向上を目指し、尽力してまいります。



かまいしコミュニティ・ スクールの推進 「学校」と「地域」が ともに元気に！

令和4年度からすべての小中学校において導入されたコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）。初年度ということもあり、まずは学校を知ってもらい、目標やビジョンを共有するところから始まりました。

どの協議会でも、委員の方々から、さまざまな意見やアイデアが出され、可能性にあふれた「かまいしコミュニティ・スクール」のスタートとなりました。

各協議会の熟議の内容の一部を紹介します。

- ・地域の中で行われる体験活動について
- ・ノーメディアと家庭の教育力の向上について
- ・地域とともに取り組む防災活動の在り方について
- ・地域の子供たちの課題と、学校運営協議会としてできること

今後、教育広報では各協議会の様子等も紹介していきます。



学校運営協議会の熟議の様子

かまいし絆会議 「未来への第一歩」

今年度も8月と12月にかまいし絆会議を開催しました。

8月4日（木）に開催した会議では、9月の「絆の日」の取組について話し合いました。「絆の日」の取組では、「ありがとうの手紙」を歌う、「ありがとうの気持ち」を発信する、「かまいし絆宣言をみんなで読む」の3案をもとに話し合い、全小中学校で「ありがとうの手紙」を歌うことに決まりました。かまいし絆会議ポスターの作成では、より良いポスターにするためにさまざまなアイデアを出し合い、参加メンバーの思いを込めたポスターとして完成させることができました。



小中学生による話し合いの様子

また、12月27日（火）開催の会議では、今年度の活動の成果と課題について話し合いました。「絆の日」の取組では、各学校で取組を工夫し、「ありがとうの手紙」の歌に思いを込めて歌うことができたという反面、一時的な取組になってしまっていることが課題として挙げられました。今年度の地域活動については、あいさつ運動や清掃活動、施設訪問等の取組が紹介されました。地域の人たちとのつながりや関わりを大事にしながら、地域のためにできることを実践したことが成果として挙げられました。ただし、感染症の影響で活動制限を受けたので、もう少し地域に貢献できるような活動を工夫したいという意見も出されました。

来年度も各学校の取組が充実することを期待しています。

「総合的な学習の時間」の様子を紹介します！

小中学校では、「総合的な学習の時間」として、学校ごとに特色のある探求的な学習を行っております。今回の広報では、2つの中学校の学習の様子をご紹介します。



釜石東中学校

防災学習

釜石東中学校は、これまでの先輩たちが積み上げてきた学習をもとに、地域の方々による防災講話や小中合同防災訓練、防災まち歩きなど様々な防災学習に取り組んでいます。その総まとめとなる学習が3年生による伝承活動です。校区内2校の小中学生に対して、9年間の学習をもとに何を伝える



紙芝居グループの発表を
真剣に聞いている小学生たち

のかを考えるとところから活動が始まります。それをどう伝えれば、小学生たちが興味をもって真剣に考えてくれるのか、グループ毎に何度も話し合います。今年は、劇や紙芝居、すごろくゲーム、実験などを活用して小学生に伝えていました。小学生たちが一生懸命聞いてくれたり、考えたりすることを通して、防災への理解を深めてくれることが、生徒たちの喜びにもつながっており、卒業後も地域防災に携わる決意を示す生徒もいました。

大平中学校

福祉学習

大平中学校は、3年間を通して、福祉学習と防災学習に取り組んでいます。特に、福祉学習では、『支え合い・助け合い、安心して暮らせるまちづくり』というテーマのもと、地域の福祉について学び、発信する活動を行っています。災害時に、高齢者や障がいのある方



野菊ばあちゃんを心配する
嫁の楓さんの場面

への支援を行うことが、地域貢献につながるといふ思いで、4年前から福祉学習に力を入れていきます。

認知症サポーター講座、キャップハンディ体験、手話講座等、さまざまなプログラムを通して、生徒たちは意欲的に福祉について学びを深めています。また、高齢者施設を訪問し、入所者に大平ソランを披露し、元気を届ける活動も行っています。

そして、3年間の学びの集大成として認知症をテーマにした演劇作りに、生徒たちが主体的に取り組み、文化祭で発表しています。今年度は、さらに平田小学校で、児童や地域の方にも演劇を披露しました。認知症に関する理解を促すと同時に、認知症の人を地域全体で見守る体制作りの大切さを、素晴らしい演技と共に発信しました。

「鉄」から学ぶ 釜石独自の郷土学習

釜石市は鉄・魚・ラグビーなど、歴史・文化に根ざしたアイデンティティを有しており、地域ごとに特色が出せる郷土学習に恵まれたまちと言えます。市文化振興課では、鉄にスポットを当てて、『ものづくり』の大切さと次世代への継承、リーダーシップを育むことを目的に、鉄づくり体験事業を実施しています。

令和4年度からは、市内全中学校の1年生全員を対象に、釜石独自の郷土学習である、鉄づくり体験を実施しています。

『ものづくり』の大切さを学ぶ

鉄づくり体験では、レンガを用いた炉の構築、木炭の打割り作業など、鉄を作るための労力や時間、できあがった鉄の量等から、『ものづくり』の大変さを学びます。子どもたちからは、「あんなに頑張ったのに、思ったよりもできた鉄が小さかった」や「鉄を作るのは大変」等の『ものづくり』の大変さを実感した素直な感想が述べられました。



鉄づくり体験の様子

次世代リーダーの育成

鉄づくり体験は、近代製鉄の父大島高任にしろ、班体制で実施します。リーダーにのみ築炉方法や操業方法を教えているので、リーダーは班員をまとめ、班員はリーダーを支える大切さを学びます。お互いの立場に気がついて協力した班は、作業効率が上がるなどの一定の成果がみられました。

総合的な「鉄」の郷土学習へ

郷土への思いをより深めてもらえるように、鉄づくり体験や、鉄の検定、橋野鉄鉱山・鉄の歴史館の見学などを実施し、郷土学習を進めていきます。

令和4年度献立募集 入賞作品決定

令和4年度献立募集の入賞作品が決定しました。

この事業は、料理を考えることで、食べ物への関心を育み、生涯にわたって自らの健康管理ができる児童・生徒を育てることを目的としています。

「ぼくの・わたしのおすすめ汁物」をテーマに作品を募集し、審査を行い、入賞作品が決定しました。

小学校の部

【最優秀賞】

『ふわふわサケつみれのまごわやさしいとうにゅうスープ』

栗林小学校3年

八木澤 凜乃さん

★1月25日の給食で提供しました。



※《まごわやさしい》とは、和の食材の頭文字を覚えやす

く語呂合わせした合言葉です。
○ま豆類 ○ごま ○わかめなどの海藻類 ○野菜類 ○さ魚類 ○しいたけなどのきのこ類 ○い芋類

【優秀賞】

鶴住居小学校3年

山崎 愛加さん

鶴住居小学校5年

久慈 廣多さん

鶴住居小学校6年

千葉 心菜さん

中学校の部

【最優秀賞】

『グルテンフリーのバランスいどん』

釜石中学校3年

佐藤 謙眞さん

★1月27日の給食で提供しました。



【優秀賞】

釜石中学校1年

加藤 大翔さん

釜石中学校1年

松村 聖莉さん

釜石中学校3年

高田 瞳子さん

学校給食における

地産地消の取組

「まるごと釜石給食」

令和4年11月14日（月）に、市内14校の小中学校で「まるごと釜石給食」を実施しました。当日の献立内容は「ご飯・牛乳・釜石はまゆりサクラマスの塩麴焼き・じゃがいものそぼろ煮・三陸わかめのみそ汁・りんご」です。釜石市産の食材を取り入れ、釜石の魅力をもっと感じられる献立となりました。

釜石市では、サクラマスの海面養殖試験研究が進められていて、地元企業のご厚意のもと、「釜石はまゆりサクラマス」を給食用として特別に納入していただきました。初めて食べた児童生徒が多く、「脂が乗っていておいしかった」「釜石の海で養殖されていることを初めて知った」という声がありました。



地元食材を活用した「まるごと釜石給食」

令和4年度学校給食

優良校等表彰受賞

釜石市学校給食センターが、令和4年度学校給食優良校等表彰（岩手県学校給食会会長表彰）を受賞しました。

今回の受賞を機に、子どもたちが食を通じて健康やかな体と豊かな心を育むことができ、給食の一層の充実を図ってまいります。



釜石市学校規模

適正化検討委員会

【第9回検討委員会】

令和4年11月10日（木）に、「小中一貫校及び義務教育学校」、「釜石市立小・中学校における学校規模の適正化・適正配置に関する提言（案）」を議題として開催されました。

小中一貫校及び義務教育学校の制度概要、先進地の事例、県内の設置状況が説明され、当市の学校規模の適正化を検討していく上で、小中一貫校及び義務教育学校の設置も選択肢の一つとして検討することを確認しました。

これまで検討委員会と協議、検討した結果を踏まえ、検討委員会の意見を提言としてまとめました。

【釜石市立小・中学校における学校規模の適正化・適正配置に関する提言書提出】

令和4年11月28日（月）に、市川淳子委員長より教育委員会に対し提言書が提出されました。

提言書は、検討委員会の中で論点とした児童生徒に身につけさせるべき資質・能力は何か、身につけさせるにはどのような学校規模が適正なのか、小規模校のメリットやデメリット、学校と地域のつながり、小規模校化の中での部活動、適正規模を考える上での配慮事項、小中一貫校及び義務教育学校などについて、これまで9回の議論を重ね提言として意見をまとめたものです。

教育委員会は、この提言の趣旨を受け止め、今後策定を予定している「釜石市立小・中学校における学校規模の適正化・適正配置基本方針」に反映し策定に向けた取組を進めていきます。

提言書の詳しい内容は、市ホームページをご覧ください。

釜石市総合教育会議

令和5年2月20日（月）に、市長、教育長及び教育委員が出席し、「釜石市立小・中学校における学校規模の適正化・適正配置基本方針（案）」、「学校規模の適正化・適正配置の今後の推進体制」、「学校規模の適正化・適正配置の推進に係る課題」について、意見交換、協議が行われました。